

元気のヒント

◇33◇



徳島大学病院泌尿器科

金山 博臣

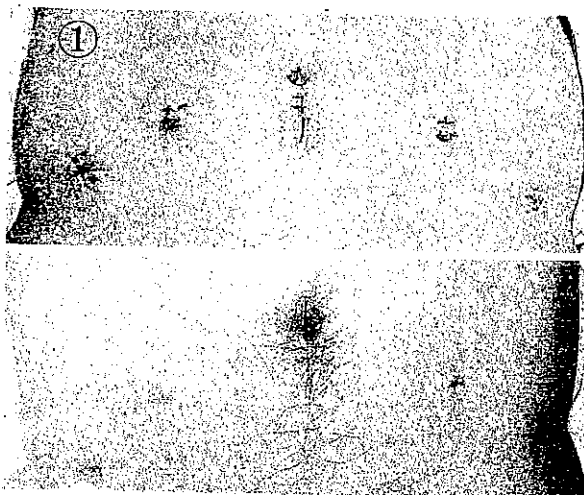
男性に起こる前立腺がんが、近年急激に増えています。特に、腫瘍マーカーであるPSA(前立腺特異抗原)の血液検査により、早期がんが多く発見されるようになりました。地球一周の「アースマラソン」で有名な間寛平さんも、それで発見された一人です。前立腺がんの治療には、手術、放射線治療、内分泌療法があり、早期がんでは、手術と放射線治療により完治が期待できます。

前立腺がんの腹腔鏡手術

おなかに挿入し、その筒から内視鏡や鉗子・ハサミなどを挿入して、テレビ画面のようなモニターを見ながら開腹手術と同じ手術を行います。

腹腔鏡手術は、おなかの中に二酸化炭素のガスを入れて、大きな画面を見ながら手術ができるため、出血が少なく正確な手術が可能です。また、小さな創傷で手術ができるため、痛みが少なく手術後の回復も早くなります。〈写真1〉は手術後の創傷ですが、1カ月後にはほとんど跡が分からなくなります。しかし、難度の高い手術なので、限られた病院で行われています。徳島県では徳島大学病院で受けられます。

徳島大 年内にもロボット導入



手術直後

1カ月後



前立腺がんの手術の90%がロボットを用いた手術です。〈写真2〉は、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」です。おなかの中に入れた筒に、ロボットのアームに装着した内視鏡や鉗子・ハサミを挿入し、離れた場所で3次元のモニターを見ながら手術を行うのです。

鉗子やハサミなどの器具を自由に動かすことができ、人間の手よりも細かな操作が可能です。

前立腺がんは、高齢男性に多いがんで、50歳を超えると増えます。早期に発見できれば手術や放射線治療により完治が期待できますので、50歳を超えたら年に1回はPSAの血液検査を受けましょう。

父親や兄弟が前立腺がんの場合、40〜45歳からの検診が勧められています。

痛み少なく早い回復